

情報科におけるリフレクションシートを活用した授業実践と 授業改善・多面的評価の実現の可能性

隅田 詠吉[†]

[†] 津田学園高等学校

Email: sumida.eik@tsudagakuen.ac.jp

主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニングの視点）の充実が求められている今日において、アクティブラーニング型授業の成果を確認するための、筆者が行ったリフレクションシートを活用した授業実践を報告する。さらに、情報科の授業の特質を生かし、Google フォームを用いたペーパーレスによる活動を提案することで、その期待される効果やポートフォリオを見据えた多面的評価の可能性について言及する。

1. はじめに

中等教育における主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニングの視点）を取り入れた授業研究は、昨今関心を集めているトピックの一つである。著者も情報科の授業において、教科書に書いてあることをそのままワンウェイに教え込むのではなく、生徒が自ら調べたり解決策を考えたりするためのグループワークやプレゼンテーションを取り入れることで、新しいスタイルの授業（以下、アクティブラーニング型授業とする）や授業改善に取り組んでいる⁽¹⁾。また、学習の記録という活動に注目し、大切なことを自ら考え表現する OPP（One Page Portfolio）シートを活用した授業を展開している⁽²⁾。一方で、これまで多くの教師が手探りでやってきたアクティブラーニング型授業は、授業の盛り上がりや自発的な生徒の様子を目視することで「雰囲気は何となく」その成果を判別できるものの、学力定着の度合いや生徒個々の学習プロセスが見えないことへの不安が拭えない面がある。すなわち、アクティブラーニング型授業を評価する方法について検討していく必要性が考えられる。

さらに、次期学習指導要領の評価となる知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点に関わり、生徒の学習評価の在り方について「指導と評価の一体化を図るためには、児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することによって、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での児童生徒の学びを振り返り学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切である」⁽³⁾とされている。今後の多面的評価の充実に向けて、ポートフォリオをはじめとして生徒の学習に関わる記録を効率的に集約することが求められている。

2. 研究の目的

本研究では、授業の目標に対する到達度や振り

返りの状況について読み取ることができ、生徒の学習の過程や今後の課題を捉えたり、教師の授業改善に役立てたりすることが可能なリフレクションシートに着目した。ここでは情報科の授業において授業改善や学習評価を見据えた実践を紹介し、その成果や課題を明らかにする。

3. リフレクションシートの活用（1）

3.1 方法

本研究では、高等学校普通科における「社会と情報」の6クラスを対象として、リフレクションシートを活用した授業を実施した。リフレクションシートはすべて記述式とし、以下の質問を設定した。

- ① 今日の授業の目標について、分かったことやできるようになったことを記入してください。
- ② 今日の授業の態度目標について、自分のことを振り返って記入してください。
- ③ その他

リフレクションシートは、毎回の授業の最後に5分程度の時間を設け、生徒に記入を促した。また、質問で示される①授業の目標、②態度目標については授業の導入部で提示し、③は今回の授業に限定した質問を設定したり小テストの問題に活用したりできるよう留意した。次回の授業では、リフレクションシートのコメントを受けて、その結果を紹介したり授業改善に役立てたりするなど、試行錯誤を繰り返した。

3.2 結果

リフレクションシートを活用した授業を一定期間行った後、その結果に関わるアンケート調査を生徒に向けて実施した。本調査では、リフレクションシートが始まって期待できることや効果、感じる問題点やデメリットの二つの点について回答を求めた。リフレクションシート活用に関わる調査結果を表1に示す。

授業について振り返る活動を導入することで、

表1: リフレクションシート活用に関する調査結果 (n=160)

- 期待できることや効果について 感じる …125 (78.1%)
感じない… 35 (21.9%)
- 期待できることや効果について (複数回答可)

書く力が身につく	47	(37.6%)
授業をふりかえることのできるので、学力が定着する	45	(36.0%)
分かったことやできるようになったことを書くので、達成感が得られる	30	(24.0%)
今日の授業について反省したり、自分に足りない部分を知ったりすることができる	58	(46.4%)
授業の先生とコミュニケーションが取れる(コメントを書いてくれる)	15	(12.0%)
多くの人が疑問に思ったことを、次の授業で紹介したり解説したりしてくれる	23	(18.4%)
リフレクションカードの内容によって、先生の授業が改善される	34	(27.2%)
定期考査や小テストなどの結果以外の部分も評価してくれる	16	(12.8%)
その他の期待や効果	1	(0.01%)

※()内の数値は「感じる」答えた125人のうちの割合を示す

生徒が「自分に足りない部分」を知ることや、「書く力」「学力の定着」を実感することができたという回答が目立った。また、授業の改善が感じられたという回答も得られた。一方で、リフレクションシートの期待や効果を感じないと考えている生徒が21.9%となっているが、「面倒であるから」「授業時間が短くなる」「いつも同じような答えになる(毎回書くことがない)」というような理由から、「書く内容によって成績を下げられそう」「別の勉強時間にあてたい」という想定していなかった回答も得られた。実際の授業でも、例えば授業時間配分の都合による終盤の慌ただしさから、リフレクションシートの取り扱いが煩雑になったり、同じ作業を毎時間繰り返すことで生徒が面倒と感じたりする雰囲気が見られた。

したがって、生徒にとって日々のリフレクションシートの利用が、何らかの期待ができることや効果が感じられるものであること、面倒さを取り除き身近に取り組めるような環境づくりが必要であると感じた。

4. リフレクションシートの活用 (2)

4.1 方法

情報科の授業は、どこの学校でもコンピュータ室で実施されることが多く、一般的に一人一台のパソコンを使用する。そこで、リフレクションシートへの新しい回答方法として、Google フォームを用いたペーパーレスによる活動を提案することにした。Google フォームで作成したリフレクションシートの一部を図1に示す。

リフレクションシートの内容は「3.1 方法」に準じて作成し、同様の方法で授業中に活用した。生徒は URL 情報が含まれたショートカットからアクセスし、クラスや番号をプルダウンから選んだり、記述欄に文章を入力したりして回答するこ

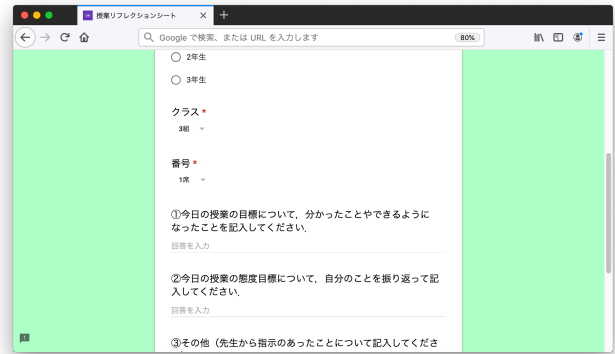


図1: Google フォームで作成したリフレクションシートの一部

とが可能となった。また、生徒全体の集計結果も容易に見ることができ、生徒個々の結果も時系列に並べることができるので、一つの画面で生徒の変容を把握しやすく、容易に記録を集約することができた。それぞれの結果の一例を図2に示す。

図2: 生徒全体(左)と生徒個々(右)の集計結果

4.2 結果

Google フォームで作成したリフレクションシートは、紙媒体での取り組みに比べ配布や回収の手間を省くことができ、著者にとって授業後の確認も効率よく行うことができた。生徒からの調査では、リフレクションシートについて「書くよりも入力する方法がよい」と答えた割合が89.2%という結果も得られた。

5. おわりに

本研究では、リフレクションシートの活用が授業改善につながったりポートフォリオを見据えた多面的評価に向けて効率的に記録を集約できたりすることが示された。しかし、その実用や成果は道半ばであり、とくに Google フォームを用いたリフレクションシートでは、個々の生徒に向けた教師からの返信やコミュニケーションが難しいなど、課題も残されている。多面的評価への実践を含め、さらに継続する必要が望まれる。

参考文献

- (1) 隅田詠吉: 情報科における能動的な学びを取り入れたアクティブラーニング型授業の推進, 日本情報科教育学会第10回全国大会講演論文集, 2017
- (2) 隅田詠吉: 情報科におけるOPP(One Page Portfolio)シートを活用したアクティブラーニング型授業に関する研究, 日本情報科教育学会第11回全国大会講演論文集, 2018
- (3) 文部科学省: 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」, http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/01/1412838.htm